

社会福祉法人の
社会貢献活動事例集

4
Vol.



大分県社会福祉法人 社会貢献活動推進協議会

 大分県社会福祉協議会

〒870-0907 大分県大分市大津町2丁目1番41号 大分県総合社会福祉会館内

TEL.097-558-0300 FAX.097-558-1635

<http://www.oitakensyakyo.jp/>

発行 2020年 3月

ごあいさつ



社会福祉法人の社会貢献活動事例集 vol.4
発行にあたって

「大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」は、社会福祉法人制度創設の理念や使命に基づき、これまで以上に地域の信頼や期待にこたえていくことを目的として、平成27年7月に設置されましたが、その活動も年々拡充を図りながら5年を経過しようとしています。

本協議会は、趣旨に賛同する大分県内の社会福祉法人によって構成され、相互に協働・連携しながら、様々な福祉課題の解決に取り組んでおり、それぞれの地域に生じている生活課題や福祉課題と向き合い、試行錯誤や創意工夫を重ね、積極的に社会貢献事業を展開しています。

また、本協議会の法人間連携による生活困窮者支援事業「おおいたくらしサポート事業」は、相談支援・経済的援助活動を県内各地で展開しており、会員法人からの拠出金により運営されています。

本事例集は、会員法人の様々な取り組みを広く紹介することで、社会福祉法人の役割や活動に一層の理解をいただくことを目的に発行しています。このたび発行する「事例集vol.4」においても、社会福祉法人がもつ強みを活かした地域社会の中での取り組みを紹介しています。

この事例集をご覧いただく皆さまが少しでも社会福祉法人の活動に理解いただき、共に協力し合いながら、地域共生社会の実現に携わっていただければ、幸いに存じます。

大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会

令和2年3月吉日



目次

2
ページ

ごあいさつ
社会福祉法人の社会貢献活動事例集 vol.4 発行にあたって

3
ページ

社会貢献事業 | 15の取り組み |

- 安心会 (3)
- 一燈園 (4)
- 栄光園 (5)
- 大分県社会福祉事業団 (6)
- 恵愛会 (7)
- 紫雲会 (8)
- 下毛もみじ会 (9)
- 松山会 (10)
- 聖信会 (11)
- 大喜福祉会 (12)
- 同心会 (13)
- すま◎ハピnakatsu (14)
- 虹の会 (15)
- はまゆう会 (16)
- 別府光の園 (17)

17
ページ

18
ページ

社会福祉法人による連携・協働事業
おおいたくらしサポート事業

別府市の「一燈園」



新港・餅ヶ浜健康サロンであった講話

サンクレールいっとうえん(同市石垣東)は「新港・餅ヶ浜健康サロン」を月に3回開催。サロンの代表で、地域の健康づくりを支援する別府市のいきいき健康サポーターの緒形仁さんが中心となり、唱歌を歌ったり、健康体操や誤嚥(ごえん)・窒息を防ぐ口の体操をして過ごしている。年に数回、講師を招いて講話も実施している。

ふれあい楽しむ高齢者



焼きいも会を開いた堀田サロン

は、地域住民や施設利用者約20人が参加。緒形さんのギター演奏に合わせて歌を楽しんだ後、県自然保護推進室の職員の講話を聞いた。職員は「大分県の自然」をテーマに、写真を見せながら、自然公園などの豊かで美しい風景や希少な野生動植物を紹介した。毎回参加しているという女性は「口の体操は健康のために自宅でもやっています。参加者同士でおしゃべりをしていると元気が出る」と笑顔を見せる。緒形さんは「参加者の『次回も楽しみ』という声にやりがいを感じて続けている」と話す。



旦の会では参加者が落語を披露

住宅型有料老人ホーム堀田一燈園は月に1回、堀田の自治会長が中心となりサロンを開く。地域住民や施設入居者、近くの高齢者福祉施設「やまなみ苑」の入居者が交流を深めており、花見や焼きいもづくりなど、季節に合わせたイベントが好評だという。

デイサービスセンター浜脇一燈園は月末の日曜日、地域住民に施設を開放。浜脇の自治会長らが「旦(あした)の会」を開催している。参加者の趣味や特技を生かした交流が特徴で、料理をしたり、落語や手品を披露するなど内容は多彩だ。

一燈園の岩崎和恵業務部長は「地域の皆さんには一燈園を身近に感じてほしいし、一燈園としては利用者が地域の皆さんとふれあう貴重な機会になっている」と話す。社会福祉法人として、高齢者が充実した時間を過ごせる場をこれからも提供し続ける。

社会福祉法人 一燈園

住所 〒874-0831 大分県別府市堀田4組(大字南立石347番地)

TEL (0977)22-6100

理事長 神徳 博宗

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム「一燈園」、住宅型有料老人ホーム「堀田一燈園」、特別養護老人ホーム「石垣一燈園」、サービス付き高齢者向け住宅・特定施設入居者生活介護・ケアハウス「サンクレールいっとうえん」、サービス付き高齢者向け住宅・特定施設入居者生活介護「メゾン・ド・いっとうえん」



宇佐市の「安心会」



オープン以来初めて、高齢者と子どもたちが交流



正月飾り作りを一緒に楽しんだ

高齢者らの集いの場

閉園した保育園、地域の交流館に
山里の風景に鮮やかな赤い屋根。宇佐市安心院町尾立の津房交流館は、閉園になった津房保育園を活用してオープンした。町内の社会福祉法人「安心会」が管理運営。地域の高齢者らが集う場となっている。



津房交流館(旧津房保育園)

津房保育園は2018年3月、園児の減少により閉園した。運営していた別の社会福祉法人から安心会に土地建物などが帰属され、19年1月に登記が完了。トイレの洋式化や壁の塗り替えといった改修を終った7月、津房地区の高齢者らの健康福祉への貢献を目的に、交流館として再出発した。

老人クラブやまちづくり協議会、地域住民らの活動、趣味の教室などに無料で利用できる。▽社会福祉協議会、市の地

域包括支援センターから招いた講師による認知症の予防や健康体操教室▽警察官による振り込め詐欺被害防止講座などが開かれている。利用者は1回20人程度。独居の高齢者らが多いことから、活動の際には法人が昼食を提供する。

暮れも押し迫ったある日。交流館に約30人の大人と子どもが集まった。この保育園を卒園した津房小学校の児童の他、地域の高齢者や放課後児童クラブの指導者らが参加。手洗いうがいといった冬の健康学習に続き、元気に歌を歌ったり、手品に歓声を上げたり。昼食には地域の人たちが作った特製カレーをにぎやかに味わった。

午後は正月飾り作り挑戦。「よく見てよ。こうねじって、こうして…」と、地区で一番の名人に教わりながら、わらで縄をない、しめ飾りに。竹筒に松竹梅やナンテンなどを思い思いに生けて持ち帰った。

子どもたちが参加する交流イベントはこれが初めて。10年ほど前から閉園まで園長を務めた河野利雄さんは現在、交流館の管理人。地域の皆さんに元気になってもらうための拠点になればと思っっています。きょうは子どもたちの元気な声に戻ってきて、建物も喜んでいるようです。今後も世代を超えた活動をしていければ――

子どもたちの成長を見守ってきた園舎は今、元気な地域づくりの拠点として新たな役割を担っている。

社会福祉法人 安心会

住所 〒872-0506 大分県宇佐市安心院町妻垣401番地

TEL (0978)34-4015

理事長 矢野 省三

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム妻垣荘、地域密着型特別養護老人ホーム安心院の郷妻垣、妻垣荘ショートステイサービス、妻垣荘デイサービスセンター、地域密着型デイサービスセンター、介護保険サービスセンター妻垣荘、妻垣荘訪問介護ステーション、安心院圏域地域包括支援センター



日出町の「大分県溪泉寮 けいせんプラザ」

けいせんプラザは、無料低額宿泊所として生活困窮者や障がい者など何らかの理由で生活に困っている人を受け入れ、宿泊場所と食事を提供する他、緊急の一時保護や障がい者の「親子あそび」といった事業を展開し、安心して地域で生活ができるよう支援している。「地域社会に開かれた施設を目指す中で、子どもの孤食を防ぐ、バランス良く栄養を取る、コミュニ



自由時間は工作やゲームなどで楽しむ



提供された野菜でたっぷり



たくさんの人と囲む食事

楽しい食事で心満たして 子ども食堂「ふらっとホーム」を開設

大分県溪泉寮の「けいせんプラザ」(日出町)は月に2回、「子ども食堂ふらっとホーム」を開設している。「子どもたちに食べてほしい」とフードバンクや地域の農産物販売会社等から食材の提供を受けるなど、支え合いは地域に広がっている。

ケーションをとり楽しい食事で心を満たすことを地域で提供しようと2019年8月から子ども食堂に取り組んできた。

ふらっとホームという名称には、駅のプラットホームをイメージし、「ほっと一息つき、多くの人が利用でき、気軽に(ふらっと)立ち寄れる」という願いが込められている。日出町の小中学生を対象に、毎月第2、4金曜日(定員10人、利用登録が必要)。みんなが夕食を食べ、自由時間で遊びを楽しむ。利用は無料。地域から提供を受けた食材を用いて、溪泉寮の管理栄養士が献立を決めている。

20年1月の「ふらっとホーム」を取材した。この日のメニューはキャベツ鍋、カボチャサラダ、しらす入りホウレンソウのお浸しにごはんとミカン。栄養バランスの取れた料理が並んだテーブルを囲むと会話も弾み体もほかほかだ。自由時間は工作や絵を描いて楽しんだ。

「両親が働いている家庭も多くなっている。お子さんの居場所づくりができればうれしいです。フードバンクや地域の方から食材を提供してもらい、周りからの支えで実施できています。子どもたちが楽しみに来ているような場所をつくっていきたくです」と担当の主任支援員・永徳紀子さんは話す。たくさんの人で食卓を囲む楽しい時間が、子どもを育み地域をつなぐ。

社会福祉法人 大分県社会福祉事業団

住所 〒870-0907 大分県大分市大津町2-1-41

TEL (097)552-1316

理事長 青木 繁

運営施設(事業所) 大分県溪泉寮(救護施設)、相談支援事業所ほほえみ、福祉農園ハイテック(就労継続支援B型、就労移行支援)、共同生活援助事業所けいせん(共同生活援助)、けいせんプラザ(無料低額宿泊事業、短期入所) など



別府市の「栄光園」

子どもと大人集う場に 未来見据え地域づくり

社会福祉法人「栄光園」は、地域コミュニティづくりを目指し、地域の子どもと大人が集まる機会を提供する「集いの場くるみ事業」を始めた。幅広い世代がさまざまな活動を通じて交流し、つながりを深めている。

同事業は2019年5月にスタートした。別府市南荘園町の栄光園で毎月1回(基本は第3土曜日)、サッカーやレクリエーション、キャンプ、季節のイベント行事などを開催。参加者みんながクッキングをするなど、食育も重視

未来見据え地域づくり

している。同園が運営する児童養護施設の子どもも含め、地域の子どもたちが集まって活動し、地域住民や大学生ら大人がボランティアスタッフとして関わる。参加費は1回につき子ども200



約30人が参加したクリスマス会(2019年12月)



スポーツイベントも実施

子どもと大人が力を合わせて活動

円、大人300円。「誰でも来ていいですよ」と同園の地域支援員原田康子さん。子ども会活動などが減り、地域の子どもと大人とのつながりが築きにくくなっています。活動を通して顔なじみを増やし、地域づくりを進めたい。子どもはもちろん大人にとっても、地域における「居場所づくり」になれば」と話す。

19年12月に開かれたクリスマス会には、子どもと大人合わせて約30人が参加。きれいに飾り付けられた同園のホールに集まって、食事やビンゴゲームを楽しんだ。この日は三菱電機の科学教室も開かれ、モーターで動く動物作りにも挑戦した。生き生きとした表情で活動する子どもたち。それを見守る大人たち。中にははしゃぎすぎて叱られる子どももいたが、みんなで過ごしたひとときはかけがえない思い出となった。

毎月の取り組みをしっかりと地域に定着させ、より多くの大人の参加を呼び掛けるのが今後の課題という。「もっとボランティアが増えれば、食育にもより力が入れられます」と原田さん。事業名の「くるみ」には「来る未来」の意味を込めた。「同じ場所で同じ活動をするにより、子どもたちに共通の思い出ができます。大人になった時、そのことを思い出しながら力を合わせて地域を盛り立ててほしい」と願っている。

社会福祉法人 栄光園

住所 〒874-0904 大分県別府市南荘園町3組

TEL (0977)23-2827

理事長 江口 敏一

児童養護施設栄光園、乳児院栄光園、

運営施設(事業所) 青山保育所、野口保育所



豊後大野市の「盲養護老人ホーム三国寮」

羽田正司施設長



各都道府県の盲人協会、視覚障害者協会と連携する組織として、市町村単位で協会を設けているところが多いが、豊後大野市にはなかった。県内に盲養護老人ホームは1カ所しかなく、その貴重な施設が立つ同市で、協会設立は長年望まれていたことだった。

市視覚障害者協会を設立、運営

各都道府県の盲人協会、視覚障害者協会と連携する組織として、市町村単位で協会を設けているところが多いが、豊後大野市にはなかった。県内に盲養護老人ホームは1カ所しかなく、その貴重な施設が立つ同市で、協会設立は長年望まれていたことだった。

20年1月末現在で正会員(視覚障害者)21人、賛助会員25人。杉谷さんが会長となり、羽田施設長が事務局長を務める。定期的に役員会を開き、交流イベントの企画や課題の共有、検討などを進めている。「活動を通して、福祉サービスなどの社会資源の情報を伝え、利

専門性生かし地域貢献

豊後大野市で「盲養護老人ホーム三国寮」を運営する社会福祉法人「紫雲会」(麻生亮 理事長)。市視覚障害者協会の設立に向けた動きをサポートし、2019年の発足後は、情報やノウハウを提供して運営に携わっている。

覚障害者から「協会があればいろいろな情報が交換できる」、市外から入所してきた人から「以前に入会していたので、また入りたい」などの声も上がり、19年5月、三国寮内に事務局を置く準備会を立ち上げ、協会設立に向けて動き始めた。

準備会は、前三国寮施設長で、退職後に視力が低下した杉谷佳代子さんから3人の視覚障害者を含む6人で構成。隣接する竹田市の竹田視覚障害者相互援助協会などにもアドバイスを受けながら、話し合いを重ねた。7月には設立の機運を高め、行政にも関心を持ってもらおうと、在宅障害者支援ネットワークの小野久事務局長を招いて施設で講演会も開催。その後も会合を続け、12月の総会で「豊後大野市視覚障害者協会」が正式に発足した。



会長を務める杉谷佳代子さん



協会の設立総会(2019年12月)

用をサポートしていきたい。介護者にも、専門施設が持つさまざまなノウハウを伝えていきたい」と羽田施設長。「いずれは当事者の思いやニーズを協会としてまとめ、行政に要望できるようになれば」と考えている。

社会福祉法人 紫雲会

住所 〒879-7144 大分県豊後大野市三重町本城2050

TEL (0974)22-1010

理事長 麻生 亮一

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム紫雲荘、盲養護老人ホーム三国寮、障害者支援施設本城苑、ホームヘルプセンター紫雲、サポートセンターサライ、就業・生活支援センターつばさ、紫雲荘デイサービスセンター、作業所Beハウス、介護保険サービスセンター紫雲、グループホームコスモス



別府市の「茶寿苑」

熊本・大分地震の教訓生かす

別府市北鉄輪の特別養護老人ホーム「茶寿苑」は年に1回、地域住民と共に避難訓練を実施している。2016年の熊本・大分地震の際、施設が一時的に地域住民の避難所となった経験と教訓から始めた。災害時に自力での避難が難しい高齢者の避難誘導、避難所の設営などを訓練し、今後起こりうる災害に備えている。

地域住民と共に避難訓練



施設での避難生活を想定して訓練



19年の訓練には北鉄輪地区の地域住民、茶寿苑の職員ら約20人が参加。地震が発生したためライフラインが止まり、余震も続く状況—という想定で、茶寿苑へ避難した。1人暮らしで自力での避難が難しい高齢者は、職員らのサポートを受けながら、車いすに乗って茶寿苑まで避難した。茶寿苑では、受付や炊き出し、仮設トイレの設置など避難を受け入れるための一連の流れを訓練。災害用の段

自力での避難が難しい高齢者を誘導



炊き出し訓練する参加者



ボールベッドや簡易テントの組み立ても体験した。生活相談員の元永誠さんと事務長の山本孝哉さんは「震災のあつた日を思い出し、実感を持って取り組むことができた」と訓練を振り返る。「もともと地域住民が自主的に行っている災害時訓練もあるため、地域でしかできないこと、施設でしかできないことを認識しながら毎年継続していく。北鉄輪地区は道が狭かったり、高齢者が多いなど、地域固有の課題もあるので、課題に対応していけるように訓練したい。もっと多くの人に参加してもらえよう声をかけていきたい」と話している。

社会福祉法人 恵愛会

住所 〒874-0041 大分県別府市北鉄輪3組

TEL (0977)66-5021

理事長 山本 記顯

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム茶寿苑、地域密着型特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、介護保険サービスセンター、地域包括支援センター、小規模多機能サービス、別府軽費老人ホーム閑話園



大分市の「松山会」



健康づくりに役立つ知識を紹介



徐々に参加者が増加



小学校の福祉学習講座へ講師を派遣

住み慣れた地域で健康な生活を

元気があつた教室は、介護保険のサービスを使っていない人を対象にした介護予防教室で、2016年にスタート。滝尾、下郡、森岡の各校区公民館でそれぞれ月に1回開いている。地域の人たちが、住み慣れた地域で健康な生活を

を続けられるよう支援するのが目的。健康講話と運動を毎回実施しており、同センターの田嶋大介所長や各分野の専門職員が講師を務める。健康講話は感染症や熱中症、認知症、口腔ケア、介護保険など多様なテーマを取り

松山会は他にも社会貢献事業の一環として、地域子育て支援事業「ほつほサロン」の運営の協力、小学校の福祉学習講座への講師派遣、地域のふれあいサロンや老人会などでの出前講座といったさまざまな取り組みをしている。松山会は「地域に貢献し、地域からも支えられる法人」を目指し、これからも地域との関係づくりを進めていく。

地域住民向けに介護予防教室

特別養護老人ホームなどを運営する大分市の社会福祉法人松山会。さまざまな社会貢献活動に取り組む中で、緑風苑高齢者総合相談センターは、地域住民向けに介護予防を目的とした「元気があつた教室」を開催している。介護予防、認知症予防に役立つ知識を紹介したり、自宅で簡単にできる筋トレや低負荷の運動などを指導し、地域の健康づくりを支援している。

上げていく。運動はリズム体操や筋力アップ運動、ストレッチ柔軟運動など、自宅でも気軽にできる内容。目指すのは病気やけがをしにくい体づくりで、「体の状態やバランスを見ながら、一人一人に合ったトレーニングを指導することもある」と田嶋所長。教室を始めた頃は、参加者が10人ほどだったが、それぞれが友人を誘って参加するようになるなど、徐々に人数が増えてきているという。田嶋所長は「地域のコミュニティの場にもなっており、参加者が互いに声を掛け合う関係が生まれている。私たち法人側も地域住民や高齢者団体との信頼関係の構築につながっている。これから参加者が心も体も元気になり、健康的な生活を送れるよう応援したい」と話す。

社会福祉法人 松山会

住所 〒870-0961 大分県大分市下郡山の手2番17号

TEL (097)567-3733 理事長 大角 秀一

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム緑風苑、緑風苑指定短期入所生活介護、緑風苑ティサービスセンターB型・E型、緑風苑ホームヘルプサービス、緑風苑介護保険サービスセンター、緑風苑高齢者総合相談センター、滝尾包括支援センター(大分市受託事業)、有料老人ホーム紅葉苑、紅葉苑ティサービスセンター絆、紅葉苑ティサービスセンターこころ、紅葉苑ホームヘルプサービス、軽費老人ホーム白寿苑



中津市の「もみじ園」

働くことが困難な人へ訓練提供

中津市耶馬溪町の指定障害福祉サービス事業所もみじ園は、働くことに困難を抱える人を支援する認定就労訓練事業を始めた。長期離職者や心に課題のある人らが社会とつながり、仕事をしていくための道筋を付ける。

認定就労訓練事業は事業者が自治体の認定を受け、すぐに一般企業で働くことが難しい人に就労の機会を提供するもの。もみじ園は2019年8月に県から認定を受けた。就労継続支援B型事業所としてのノウハウを生かして同月から1人を受け入れ、訓練を実施している。

自信付け一般就労へ

品加工作業、ユズやカボスの収穫といった農作業、プランターでの植物栽培など多岐にわたる。サポートする職員と日々の取り組みを振り返り、社協の担当者も交えて随時話し合いを持ち、順調に活動の幅を広げてきた。「これまでは何をすることも怖かったが、外に出ていろいろ経験していくうち、次のステップを考えられるようになってきた」と男性。起床時間や帰宅後の行程など毎日のサイクルができ、リズムが整うと自然に体を動かすようになったという。「ここでの経験を生かし、やっていける気がしている」と前を向く。



プランターで育てるイチゴ



食品加工など、日々体験する作業内容は多岐にわたる



社会福祉法人 下毛もみじ会

住所 〒871-0401 大分県中津市耶馬溪町大字平田1479番地1

TEL (0979)54-3490

理事長 平原 伸

運営施設(事業所) 指定障害福祉サービス事業所もみじ園、共同生活支援事業グループホームとちの木・とちの木2、特定相談支援事業・障がい児相談支援事業サポートセンターもみじ、生計困難者に対する相談支援事業「おおいとくらしサポート」事業



日田市の「喜楽苑」



広々とした芝生グラウンドや遊具で遊ぶ五和保育園(日田市)の園児たち

地域交流広場を整備

特別養護老人ホームを中心にサービスを展開する社会福祉法人大喜福社会。さまざまな地域貢献活動に取り組み中で2019年3月、地域交流広場を整備した。住民の交流や健康づくりのために無料開放している。

健康づくり、交流促進へ

日田市天瀬町の特別養護老人ホーム喜楽苑前に整備した広場には、5千平方メートルの芝生グラウンド、子ども用の遊具、高齢者も無理なく使えるトレーニング器具、周囲を巡るウォーキングコース(500メートル)がある。平日はグラウンドゴルフやウォーキングの愛好者、遠足で訪れる園児らでにぎわい、休日は家族連れが楽しいひとときを過ごしている。同法人の職員もウォーキングコースなどを活用し、健康づくりに励んでいる。

19年に創立23周年を迎えた同法人。もともと地域貢献に積極的で、喜楽苑内に誰もが利用できる喫茶店を定期的に開いたり、祭りなどイベントの手伝いをしたりとさまざまな活動に取り組んできた。広場の整備は20周年の節目に計画。県が取り組む「健康寿命日本一」、日田市が推進する「健康ひた21計画」に基づき「地域住民が健康寿命の延伸を図り、住み慣れた地域で最



グラウンドゴルフの愛好者が集い、プレーを楽しむ

期まで、その人らしい生活が続けられるよう、健康増進につながる環境を整えたい」と事業に着手した。

地域交流広場推進協議会を立ち上げ、ウォーキングやパークゴルフ、グラウンドゴルフなどの団体や住民の代表などに集まってもらい、さまざまな要望を取り入れて整備方針を決めた。総工費約8180万円のうち、県の補助金3千万円を除く約5180万円は、福祉充実計画資金ではなく全額同法人の自己資金だ。

広大な広場だけに維持管理が大変だが、グラウンドゴルフをしに来た人が草刈りや芝刈りの手伝いを申し出るなど、利用者の協力を得ながら環境を維持している。古賀和成事務局長は「健康づくりを軸に交流が生まれ、地域の活性化につながれば。より多くの方に活用してもらえような仕掛けづくりに取り組みたい」と話している。



社会福祉法人 大喜福社会

住所 〒879-4201 大分県日田市天瀬町桜竹1115-87

TEL (0973)26-7810

理事長 大庭 富紀

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム喜楽苑、シヨートステイ喜楽苑、喜楽苑訪問介護事業所、喜楽苑指定通所介護事業所、介護保険サービスセンター喜楽苑、日田市南部地域包括支援センター

中津市の「さわらび」

若い介護者ら集える場を提供

社会福祉法人聖信会の地域密着型特別養護老人ホーム「さわらび」(中津市)は、地域ぐるみで認知症の人やその家族をサポートしようとして取り組みを続けている。2018年からは「認知症の親を介護している若い家族の集い」を定期的に開いてきた。

認知症患者の増加に伴い、介護する家族も増えている。患者への支援制度は整いつつあるが、支える家族への支援は足りないのが現状だ。中でも若い介護者は子育てや仕事などで忙しく、孤立しがちな傾向にある。

日本ケアラー連盟は、家族にケアを要する人がいる場合、大人が担うような家事や家族の世話、介護などをする18歳未満の子どもを「ヤングケアラー」、18歳からおおむね30代までを「若者ケアラー」としている。介護と子育てをしている人を「ダブルケアラー」という。

聖信会の古川信房理事長と宝珠山照人施設長は18年に大分県が開いた若者ケアラーの研修会を受講。「県内にも多くの若者ケアラーがいる。身近に集える場があれば、支援の手が届きにくい人のよりどころになるのでは」と考え、さわらびで始めるに至った。

これまで18年10月、19年6月、11月と3回開催。気軽に参加できる雰囲気をつくりたいと、参加は無料で入退席

支援の手届きにくい「若者ケアラー」の支えに

も自由にしている。識者による講話があった後、参加者同士が体験や思いを語り合う集いが開かれる。「母の介護をしているのですが、やっと来られました」と話す若い母親や、自分が介護した経験で若い人を支えたいという人も参加するなど、徐々に輪が広がっている。参加した人からは「同じ境遇の人がいて心強かった」「心が軽くなった」などの声が寄せられているという。

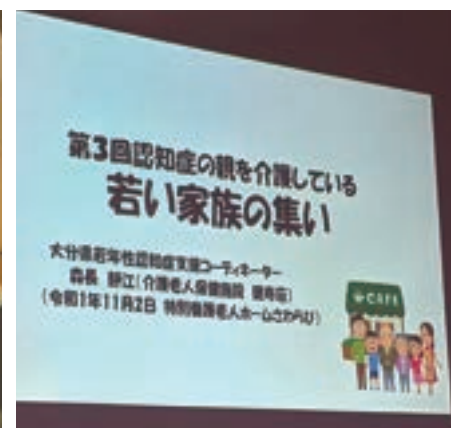
担当の介護支援専門員・河野いずみさんは「思いを分かち合える場の必要性を感じています。これからも続けていきたいです」と話す。年齢を問わず支え合える関係が、温かな地域をつくれる。



専門家の講話に聞き入る参加者



認知症サポート医の山内勇人氏



体験や思いを語り合う

社会福祉法人 聖信会

住所 〒879-0103 大分県中津市植野241番地1

TEL (0979)33-1138

理事長 古川 信房

運営施設(事業所) 特別養護老人ホームさわらび、シヨートステイさわらび



中津市の「すま😊ハピnakatsu」事業

調理や食事共にし自立へ一歩



買い出しから調理まで協力して進める



月に一度の開催日にはさまざまな人が集まる

誰もが集える居場所を提供

共に料理し、食事することで自立に向けた一歩を。中津市では市内の社会福祉法人に所属する「コミュニティソーシャルワーカー(CSW)」が連携し、生活困難者の居場所づくりの取り組み「すま😊ハピnakatsu」を開催している。

「今日は何が食べたいですか」「大きな大根があるんですけどよ」。

特別養護老人ホーム「悠久の里」の一室に参加者とCSWが集まり、みんなで作る

昼食の相談を始めた。参加者は、人の関わりに不安がある人や市内で働く外国人、高齢者や子どもなどさまざまな人たちが。ここでは何事も全員で話し合っただけ。お好み焼き、大根ステーキや豚肉と大根の煮物、フィリピ

ン出身の女性たちによる「アドボ(同国の代表的な家庭料理)」とメニューが決まり、ホワイトボードに必要な材料を書き出していく。

その後、近くのスーパーに買い出しへ。予算を確認しながらより経済的な買い方を相談し、メモにないものも臨機応変に買い足していく。施設に戻ると手分けして早速調理に取り掛かる。おしゃべりをしながら包丁や箸を使う人、黙々と手を動かす人、やり方はそれぞれだ。しばらくするとあちこちから湯気が上がり、楽しい食事が始まった。

すま😊ハピnakatsuは市内5法人が協力して立ち上げ、2019年5月から月1回開催している。「スマイル「ハッピー」」から取った名称は参加者の発案。さまざまな理由で他者との関わりが少なく家から出る機会があまりない人らを対象に、制度にとらわれない「誰もが集える居場所」を提供する。参加者が不安や心配を感じることもなく「楽しかった、また来たい」と思えるよう、支援する側・される側ではない関係性の中で、まずその人を多面的に知るころから始まる。

共に作業し、食卓を囲むことでコミュニケーションを促進。人との会話や買い物、調理などを通して自分の強みや弱みに気づき、一緒に食べる喜びを感じ生活全般の意欲を高める。CSWとのつながりは、その後の相談や見守り、就労支援や生活の自立に向けた支援のきっかけにもなっている。

津久見市の「しおさい」

1人暮らしの高齢者に会食の場

津久見市長目の高齢者総合福祉施設「しおさい」(小野淳哉施設長は毎週、1人暮らしの高齢者が集まって食事をする)ときの輪食堂」を開催している。孤食防止や栄養面の改善など、さまざまな効果が期待されている。

栄養改善、交流で笑顔

海に囲まれた集落を施設の送迎車が回る。6人の利用者は車に乗り込むと、早速にぎやかにおしゃべりを始めた。会場の相談室に入り、まずは体操から。腕を前後に動かしながら合唱。大きな声で文章を音読し、「パ、タ、カラ」と繰り返し発声するなど、口の周りの筋肉を動かす嚙下体操で元気に食べられる体をつくる。

提供する食事は施設で出される昼食にプラス1品。月に1度は養護老人ホームの誕生会に参加し、入居者と交流する。この日は誕生月の入居者がリクエストしたメニュー。イワシのしょうが煮、牛ステーキ、いなりと巻きずしなど盛りだくさんの松花堂弁当をゆっくりと楽しんだ。

「とぎ」は大分の方言で友達を意味する。▽孤食防止▽居場所づくり▽栄養面の改善▽健康増進を目的にした市の委託事業で、しおさいでは2018年11月に開始した。地域に住む要介護認定を受けていない同居高齢者が対象で、利用料は1回500円。市からも1人につき500円の補助がある。利用者は「毎週楽しみで、生活に張り合いが出ます。若い先生が面白くてパワーをくれて、情報を生で聞けるのがいい」「みんなとお話をしたり、施設の人たちの輪に入れてもらったり。あつという間に時間がたちますね」と一様に笑顔。

管理栄養士の中野悦子さんは「ちよつとした勉強で、少しでも健康寿命を延ばし元気に暮らしてもらえたら」と話す。ここで学んだ体操を日常にも取り入れ、教えてもらったレシピで料理をするなど、フレイル予防や外出機会の増加、意欲向上にもつながっている。



食事中も会話の花が咲く



体操で元気に食べられる体をつくる



各集落を回り利用者を送迎

「すま😊ハピnakatsu」協力法人

- 社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンターいすみの園
- 社会福祉法人三光会 悠久の里
- 社会福祉法人下毛もみじ会 もみじ園
- 社会福祉法人清浄園 児童養護施設清浄園
- 社会福祉法人直心会 つくし園・望箭荘



社会福祉法人 同心会

住所 〒875-0033 大分県臼杵市大字大泊220番地
TEL (0972)63-2762
理事長 一原 浩
〈津久見〉高齢者総合福祉施設 しおさい
〈臼杵〉高齢者総合福祉施設 緑の園、
諏訪緑の園、
養護老人ホーム 臼杵市安生寮



佐伯市の「はまゆう会」



毎回約100人が参加する人気イベント。多彩な賞品も魅力の一つ



グラウンドゴルフはゴルフ同様、ホールポストにボールインするまでの打数を競うスポーツだが、自由にコースが設定でき、ルールも簡単のため、誰もがプレーできるという特徴がある。はまゆう会の日高昇治事務局長は「大人数がプレーでき、とにかく歩くので、交流や体力づくりにぴったり」と話す。

佐伯市蒲江にはグラウンド

グラウンドゴルフ大会主催

健康づくり盛り上げる

グラウンドゴルフ愛好者が多い佐伯市蒲江。特別養護老人ホーム「はまゆう」を運営する社会福祉法人「はまゆう会」は、2015年から「はまゆう杯グラウンドゴルフ大会」を開き、好評を得ている。

ゴルフ愛好者が多く、各地区に愛好会がある。市のグラウンドゴルフ協会や社会福祉協議会などが主催する大会もあり、練習に励む目標になっている。はまゆう会は、地域で盛んなスポーツを新たな大会でさらに盛り上げようと、法人名を冠した大会の開催を決定。15年から毎年開いており、60代から90代まで、毎回約100人が参加する人気イベントとなっている。

大会の運営方法は、愛好者にヒアリングするなどして組み立てていった。上位入賞はもちろん、最高齢賞やブリー賞、ホールインワン賞、開催日にちなんだ当日賞、参加賞なども設け、米や花、菓子、日用品など毎年多彩な賞品を用意している。愛好会や各老人会に案内状を送り、参加者名簿を整理してチーム分けをする際には、誰もが楽しくプレーできるように、住民から参加者の交友関係や体力、体調などについての情報をもらい、組み合わせの参考にしている。

「会場の準備なども、愛好会の皆さんが率先して協力してくれるのでありがたい」と日高事務局長。毎年秋に開催していたが、他の大会と時期が重ならないよう、19年は5月に開いた。地域住民や関係団体の意見やアドバイスを取り入れながら、柔軟な運営を心掛けていく。「地域の皆さんの健康で生き生きとした生活のために、お役に立てばうれしい」。引き続き周囲と連携しながら、大会の継続を目指している。

社会福祉法人 はまゆう会

住所 〒876-2401 大分県佐伯市蒲江大字蒲江浦1344番地1

TEL (0972)42-1886

理事長 日高 澄子

運営施設(事業所) 特別養護老人ホームはまゆう、住宅型有料老人ホームすまいるはまゆう、はまゆうショートステイ、介護保険サービスセンターはまゆう、蒲江ティサービスセンター、はまゆうヘルパーステーション、佐伯市蒲江生活支援ハウス



大分市の「虹の会」



認知症の人への声掛けを考えるロールプレイング

生徒会執行部の生徒が受講

中学生が認知症サポーターに

社会福祉法人虹の会(大分市)は地域戦略室を中心に地域貢献活動を推進している。2019年4月、中学生にも認知症への理解を深めてほしいと中学校で認知症サポーター養成講座を初めて開いた。

安心して暮らせる地域づくりを推進

地域戦略室(佐藤真理室長)は、ふれあいサロンをはじめ公民館などの健康教室に向いて血圧測定をしたり、介護保険について学べる施設見学会を開催するなど、地域との連携を深めてきた。活動の一環で住民向けの認知症サポーター養成講座も開いており、職員は講師ができるキャラバンメイトの資格を持っている。

中学生を対象にした認知症サポーター養成講座は、虹の会にとつて初めての試み。佐藤室長は「中学生は歩いて登下校するので、気になる高齢者を見かける機会があると思います。認知症に関する知識があれば適切な対応が取れますし、安心して暮らせる地域づくりにもつながります」と話す。

明野中学校の協力で実施に至った。中学3年生の生徒会執行部と学級委員28人が参加。認知症の基礎知識を説明した後、おばあちゃんに変



認知症サポーターの証しとなるオレンジリング

装した職員とロールプレイングを行い、認知症の人への対応について学んだ。最後にはサポーターの証しとなるオレンジリングが渡され、全員が認知症サポーターに認定された。

生徒から寄せられた感想には「町中で高齢者の方が迷ったりしていたら声を掛けてあげたいです」「本人が一番つらい思いをしているということを念頭に置きながら認知症の方と付き合っていきたいと思いました」といった声も寄せられた。「認知症という言葉は知っていても、どう接したらいいのか知らない生徒さんが多かったのですが、みんな熱心に取り組んでくれました。これからもぜひ続けていきたいです」と佐藤室長。認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを、社会福祉法人としてサポートしている。

社会福祉法人 虹の会

住所 〒870-0126 大分県大分市大字横尾4451-8

TEL (097)503-1755 理事長 森田 広美

運営施設(事業所)

特別養護老人ホーム「アイリスおおいた」、高齢者総合福祉施設「アイリス清心園」、サービス付き高齢者向け住宅「アイリスつるさき」「アイリスあけの」、障害者支援事業所グループホーム「アイリスVOY」、アイリスおおいたティサービスセンター、アイリスおおいたホームヘルプサービス、アイリスあけのティサービスセンター、アイリスつるさきティサービスセンター、アイリスおおいた介護保険サービスセンター



「おおいた“暮らしサポート”事業」(生活困窮者等に対する相談支援事業)

この事業は、大分県内の社会福祉法人(施設)で構成する「大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」が実施します。各施設が互いに連携、協働し、既存の制度では対応しきれない狭間の問題や、生活困窮などの課題を社会福祉法人としての「強み」を活かして迅速に対応することを目的としています。

みなさんの暮らしにまつわる相談を受けつけます。失業、虐待、けがや病気が原因で生活に困っている人はいませんか?



連携

社会福祉法人(施設)

法人内のコミュニティソーシャルワーカー

法人職員が兼務または専従

〈具体的な業務〉

- 地域の困り事を抱える方々の生活相談(ソーシャルワーク)
- 支援の必要度を判断し、施設長の決裁に基づき、経済的援助を実施(10万円上限、現物)

地域に根ざした「施設」の強みを活用

- 民間の「独自性」「即応性」「柔軟性」の発揮
- 施設機能を活かした支援の展開(施設の空きスペースの活用)
- 職員の専門性の発揮
- 生活困窮者への就労支援 等

地域で何らかの支援を必要とする人

生活困窮者、被虐待児者、精神障がい者、判断能力の不十分な方、高齢者世帯、母子世帯 等

コミュニティソーシャルワーカー

支援を必要とする方の状況に応じ、「施設」「市町村社協」の相談窓口へ繋ぐ

市町村社会福祉協議会

生活困窮者自立支援事業

県内16市町村社協が受託

〈具体的な業務〉

- 民生委員等と連携し、地域の困窮者(恐れを含む)の掘り起こし
- 相談者個々に応じた包括的な総合相談支援の実施(プラン作成)
- 経済的な給付は、離職者に対する住居確保給付金制度あり

その他社協機能の活用

- 生活福祉資金貸付制度
- あんしんサポートセンター
- ボランティアセンター
- インフォーマルサービス事業
- 権利擁護センター
- フードバンクおおいた 等

財源及び人的支援

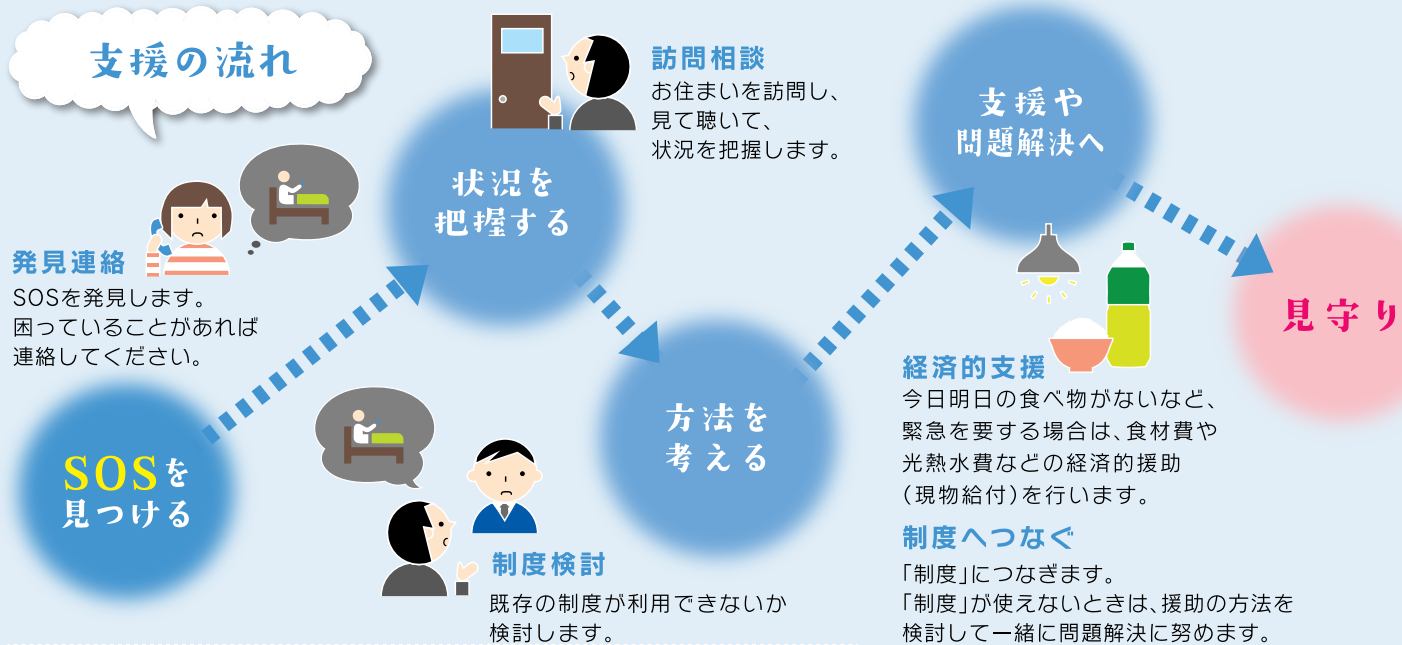
社会貢献活動基金

調整

社会貢献活動推進コーディネーター

大分県社会福祉協議会 (大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会)

支援の流れ



別府市の「別府光の園」



この日のテーマ「幸せ」について語り合う参加者

ママカフェは2018年5月にスタート。企画、運営しているのは母親たちでつくるNPO法人「ママの働き方応援隊」(通称・ママハタ、神戸市)の県内組織。県内組織の代表を務める植木あやさんは「小さな子どもを育てていると自宅にこもりがちになり、社会

ママたちが気軽に集える場を提供
子育て中の母親が気軽に集い、語り合える場に。別府市の社会福祉法人「別府光の園」の児童館は月に1回、「ママカフェ」を開いている。おやつ作りや物作りなど毎回内容を変えて開催。母親同士が交流し、子育ての情報交換などができる場を提供している。

自信と誇りを持って社会と関わって



おやつとお茶を楽しみながら情報交換



かんころ餅作りに挑戦



ママ同士の話が弾む

とつながる機会が減ってしまう。ママカフェが子育ての気分転換や母親同士の交流の場となり、母親が自信と誇りを持って主体的に社会と関わっていくきっかけとなればうれしい」と話す。自宅で簡単にできるおやつ作りや物作り、エッセンシャルオイルを使った体のケアなど、ママハタのメンバーの得意分野を生かし、毎回の内容を決めている。

20年1月のママカフェには、13組の親子が参加。参加者はママハタのメンバー3人に教わりながら、餅とサツマイモを使ったかんころ餅を作った。調理中やかんころ餅を味わう時間、母親たちは会話の花が咲き、笑顔でリラックスした表情に。日々の子育てや子どもの成長の話題などで盛り上がった。

おやつ作りの後は、改めて一人ずつ自己紹介。この日は「幸せって何？」をテーマに、それぞれが感じている幸せについて語り合った。参加した母親の一人は「子どもができるまでは、自分のことが中心だったが、子どもが生まれてからは、自分のことよりもこの子を守りたいと思うようになった。そういう存在ができたことが幸せ」と話した。他にも「健康でいること」「何気ない日常」などそれぞれの思いを発表した。

別府光の園の児童厚生員、久志寿芽恵さんは「参加者の笑顔がうれしい。お母さんたちの子育てがより豊かなものになるようママカフェなどを通じて応援していきたい」と話している。

社会福祉法人 別府光の園

住所 〒874-0838 大分県別府市荘園8組

TEL (0977)23-2506

理事長 高松 右門

運営施設(事業所)
児童養護施設 光の園、保育所 光の園子どもの広場、児童館 親子の広場、子ども家庭支援センター、子どもクラブ、共同生活援助事業 グループホーム

